

作文部門・中学生の部

最優秀賞

木を守り、命を守る

鹿沼市立南押原中学校三年

大賞 陽花有

「森林が無くなって困るのは、人間だけじゃないですよ。」

これは、総合的な学習で、森林問題について話しているときに担任の先生が発した言葉です。その言葉を聞いて私は、ある出来事を思い出すと同時に、ずっと心の中に抱えていた「疑問」が、再び蘇ってきました。

それは、小学校五年生のとき、学校の行事で県内のレジャー施設へ見学に行ったことです。私は自然や森林に興味があり、見学を楽しみにしていました。ガイドの方は私たちを案内し施設内の森を歩いているとき、森林の伐採に関する話を話し始めました。

「現在、森林は減少しつつあります。主な原因は、住宅地の拡大や、木を原料とする製品を作るために伐採していることなどです。」

と、説明され、その後続いた言葉に、私は衝撃を受けました。

「しかし、ときには木を切ることも必要。動物のためにも、木を切ることは大切です。」

「動物のために木を切る」の言葉が、頭の中で波紋のように広がりました。思わずガイドの方に質問しました。

「木を切ることは、本当に動物のためになるのですか。」

「はい。木を切ることは、動物にとって、とっても大切なんですよ。」

同じ答えを聞いて、私は理解できず、いっそう混乱してしまいました。以

前から自然や森林に興味があった私は、総合的な学習で森林問題を調べたことがあったからです。「木を守る」ことの大切さを学び、よく理解しているつもりでした。それなのに「木を切る」ことがよいこと。「とは、どういふことなのでしょうか。」

考えても答えは見つからず、解決しないままいつしか心の奥底に眠らせてしまった疑問が、先生の言葉で思い出され、自分自身でもう一度考え、調べてみよう、と思いました。

改めて調べてみると、さまざまなお話がわかってきました。まず、森林を守る＝木を切らない、と思っていたことが、そうではなかったことです。木を切らずにそのままに密集させると、太陽の光を遮ってしまい、地面に光が届かず植物がうまく育たなくなり、草などを食べている動物の食料が減り、不足します。また、木が多すぎると土中の栄養の奪い合いになり、それぞれの木に少しか届かなくなり、細い木ばかりになってしまい、森林自体が脆弱になってしまつてしまいます。樹上で生活したり、木の実を食料にしたりする動物もたくさんいます。だから、あつとき「動物たちのためにも木を切ることが大切」と教えてくれたのだ、とようやくわかりました。

今まで私は、森林を「切らずに守る」とばかり考えていました。しかし、森林は、ただそのままにしておくのではなく、適切に木を切り、バランスのとれた木の量と、良質な木を保つことこそが「木を守り、命を守る」ことだと学ぶことができました。

バランスを考えず、やみくもに木を切ることは森林を減少させてしまいます。しかし、適度に切り出した木材は、紙や鉛筆などを生み出し文明を発達させ、人間の生活を支えてきました。「切る」という行為は、森林を守ることに、木そのものの良さを引き出すことにつながる大切なことなのだ、と今の私は、しっかりと理解することができました。

森林や自然には、溢れるほどの魅力と、人間や動物を支え、育む力があります。現在私は、奉仕委員会に所属し、校内の緑化活動に携わっています。自然の素晴らしさを見つけ、身近にある植物を、この手で大切に育てたいと思います。「森林を守る」と「の本当の意義を理解し、自分にできることを実践していきます。輝く緑を、大切な命を、未来へつなげるために。」